

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		人文地理学 Human Geography			担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登		
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	地域・文化(基礎)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
環境と人間生活の相互作用を扱う。地球上をマクロに見れば、人々の生活様式は、気候と関連している。また、地表をミクロに見れば、人々は地形に応じて土地を使い分けられていることがわかる。このような自然環境と人間の経済・社会生活との関係について研究事例を紹介する。									
【到達目標】									
環境と人間生活の関係について、時代・地域に応じた多様性への認識を深めることを目標とする。									
【授業計画と内容】									
<p>§ 1．環境の学 地理学を環境と人間生活の相互作用についての学問としてとらえなおし、文明の発達における環境条件の重要性を論じた研究を紹介する。</p> <p>§ 2．環境保全の営為 日本人は古代から、河川水の安定供給のためには上流域における森林被覆の保全が重要であると認識してきた。環境保全の営為について、古今の事例を紹介する。</p> <p>§ 3．等質地域と機能地域 地域をある種の空間的まとまりと考える場合、その画定基準として場所の等質性に着目する見方と、場所間の結びつきに着目する見方とがある。両者について比較考察する。</p> <p>§ 4．基礎地域 地域を構成する最小構成単位について考察する。日本では、水田における稲作が主たる生業であったが、稲作を行うムラを組織化する原理として水利によるつながりなどがあった。こうした事例をもとに、地域の最小構成単位を論じる。</p> <p>§ 5．地形と土地利用 比較的ミクロなスケールにおける地形と土地利用の関連について、地形図の判読およびコンピュータを用いたデータ処理・表示を通して説明する。</p> <p>§ 6．平和領域 旧約聖書に述べられた「逃れの町」など、空間(および時間)における不可侵性について、古今の事例を紹介する。</p> <p>その他のトピックを、随時取り上げる。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
筆記試験などによる。また、出席確認を兼ねて、予告なしに小テスト・アンケートなどを行う場合がある。									
【教科書】									
使用しない									
----- 人文地理学(2)へ続く -----									

人文地理学(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/>(小方研究室ホームページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業を復習し、授業で紹介した文献等を必要に応じ参照すること。

[その他(オフィスアワー等)]

地図帳(高校の時に使用したものなど)を受講時に持参することが望ましい。